

「THE恐竜 in 福井」 展示設営作業の公開について

1 全身骨格

(1) エウヘロプス (復元骨格)

- ・全長 11m、幅 2m、高さ 4m
- ・前期白亜紀にタイで生息していた竜脚類 (草食恐竜)
- ・福井県で発見されたフクイティタンと近縁であり、比較・研究の対象として需要。
本企画展では、フクイティタンのロボットと対称的に設置することで、白亜紀の福井をイメージするのに役立つと考えられる。

(2) イクチオベナートル (復元骨格)

- ・全長 9m、幅 1.4m、高さ 3m
- ・前期白亜紀のラオスに生息していたスピノサウルス類 (魚食性獣脚類)
- ・福井県でもこのグループの歯の化石が見つかることから、スピノサウルス類のロボットと対称的に配置して、対比しながら観覧してもらうのが狙い。
タイ (コラート化石博物館) のレプリカ製作チームがラオスへ渡り、実物化石から型をとって製作。当館の 2015 年度特別展で公開した。

2 恐竜ロボット

(1) ティラノサウルス (株ココロ所蔵)

- ・全長約 12m、重量約 3000 kg
- ・生きていた時の大きさ (ライフサイズ) で復元し、トリケラトプスの死骸を骨ごと噛み砕いて食べている様子を再現。

(2) フクイラプトル (恐竜博物館所蔵、2009 年制作)

- ・全長：4.2m
- ・可動部分は 14 か所にのぼり、まぶたや手首など細部にまで及ぶ。首をひねるなど多彩でなめらかな動作になっている。獲物を探したり威嚇するなどの場面が想定されており、専門の研究者が生物学的に自然な動きになるよう監修した。

(3) フクイベナートル (恐竜博物館所蔵、2020 年に開館 20 周年を記念して制作)

- ・全長：3m、幅 1.2m、高さ 1.8m
- ・フクイベナートルの化石自体には羽毛の化石は見つからないが、中国で発見されている近縁のテリジノサウルス類の化石には羽毛の痕跡が残っていることから、フクイベナートルも羽毛で覆われていたと考えられる。

(4) スピノサウルス類 (株ココロ所蔵)

- ・全長 7.1m、幅 (最大) 2.8m、最高 2.9m、重量約 600 kg
- ・水中で魚を捕えていたと考えられており、尾は最新の学説をもとに、オールのような平たい形にしてある。歯に上下方向のスジがあるのが特徴で、勝山市北谷の発掘現場からは 10 本以上の歯化石が見つまっている。

3 作業予定

(1) 全身骨格 (作業：日本通運株)

- | | |
|---------|----------------|
| 10:30 頃 | エウヘロプスの組上げ開始 |
| 12:00 頃 | 〃 完成 |
| 13:00 頃 | イクチオベナートル組上げ開始 |
| 15:00 頃 | 〃 完成 |

(2) 恐竜ロボット (作業：株ココロ)

- | | |
|---------|-------------------|
| 10:30 頃 | ティラノサウルス組上げ開始 |
| 13:00 頃 | 〃 完成 |
| 14:00 頃 | その他のロボットのセッティング開始 |